

「(遊びの継続を捉える)作業は「保育の質」の測定に直接貢献できるものとはいえないが、1・2歳児の保育をとらえる時の有効な視点としては意味をもつものと思われる」と述べている。記録方式の尺度を用いた研究は、保育者が自らの保育を丁寧に振り返ることができること、振り返りによって今後の保育方針を検討し、具体的に保育につなぐことができる、という特徴がある。しかし、根ヶ山ら(2005)の研究において保育者が記録を取ることを求められた項目数がかなり多かったり、伊藤・田代(1999)の研究では保育観察を週1回という頻繁に行っていたりしている。多くの保育所や幼稚園で実際に行うためには、記録を取る期間を限定する、継続して記録をとるならば項目数を減らす等の工夫をしなければ、保育者の負担が増えてしまうと考えられる。

このように、これまでに日本で行われてきた保育の質の評価の殆どは、期間が短くて済むので保育者の負担が少ないことや、ある程度の客観性が保たれること、情報としても共有しやすいこと、といった利点はあるものの、具体的な実践に評価を反映させるところまでには繋がりにくい「チェックリストによる評価」と、保育者が丁寧に保育を振り返り実践に結びつけていきやすいものの、保育者の時間や業務負担になるため実践しにくい「記録を用いた評価」のどちらかである。このことを踏まえると、今後開発される保育の質を評価するためのツールに期待されることは「チェックリストによる評価」「記録を用いた評価」それぞれの利点を生かしていることだと言えらる。

## II 日本版 SICS (子どもたちのエピソードからはじめる自己評価法)

本研究において開発を試みている日本版 SICS ; 子どもたちのエピソードからはじめる自己評価法は、LAEVERS らの「SICS(Wellbeing and Involvement in Care: A process-oriented Self-evaluation Instrument for Care Settings, Kind & Gezin and Research Centre for Experiential Education Leuven University, 2005)」を基本として、日本の保育実践に沿ったものになるように改編したものである。保育者が日常の子どもの姿から保育や環境を振り返るプロセスが、園全体で共有されるなかで、具体的な課題だけでなく自らや同僚のよいところを発見・共有し、より質の高い保育実践に繋げていくことに重きをおいている。つまり、評価を行うことが評価を行うことだけに留まらず、評価を行うプロセス自体が園の保育の質を高めていくことに繋がることを、日本版 SICS ; 子どもたちのエピソードからはじめる自己評価法では重要視している。

日本版 SICS には、第一段階から第四段階までの4つの過程がある。まず、第一段階は「観察と評価」であり、クラスの子どもたち数名を観察し、エピソードを記録する。そして、その時の子どもが「活動に夢中になっているか」「情緒的に安心・安定して生活できているか」を評価する。根ヶ山ら(1997)が述べているように、エピソードを記録することによって、具体的な子どもの姿が見えやすくなり、丁寧に振り返ることが可能になる。そして、各エピソードについて、「安心度」と「無中度」を5段階で評定する。「安心度」とは、「安心度」は家庭外の場所で、家族外の人たちと生活している状態を、子ども自身がどのように感じているのかを観察によって理解しようとするものである。つまり、人がいい精神状態であるか、

また、人として心地よさを感じながら存在しているかどうかを示す指標である。「夢中度」とは、子どもどのくらい活動に没頭しているのかをみようとするものである。チェックリスト方式の尺度の殆どが、「できているか」「できていないか」を評価するのに対し、日本版SICSでは子どもの状態を評価するという特徴がある。一人ひとりの子どもの主体的な活動の意味を捉える際に、子どもの目線に達共感的にみることによって、子どもの経験や心の動きをみることができる。

第二段階は、「課題とよいところの発見」である。第一段階で、評価した場内容について、観察した子どもが活動に夢中になれていた・いなかった、情緒的に安心・安定して生活できていた・いなかった「理由がどこにあったのか」について、保育者同士で「保育方法」に関する5つの観点から話し合う。保育者同士での話し合いは、園内研修などで行われているが、佐伯（2007）が、“学び合うことや省察の重要性については再三論じられてきたが、実際に「学びあう」ことができているかといえば、そうとは言い難いかもしれない” “たとえば、ある保育者の保育や子ども理解が問題とされた場合には、その保育者個人の力量が未熟であることが、問題のすべてであるかのように捉え、それを克服されるべく「何ができていて」「何ができていないか」を項目別に評価し、一方的に指導・助言していくことによって改善を図ろうとする傾向が未だに残っていないでしょうか。一方、評価される側の保育者は、そうした「評価の目」を意識して保育していくことになります”と述べているように、責める・責められるの関係になってしまい、本来の保育の質を向上させることからずれていく危険もある。

日本版SICSにおいては、課題だけではなく、よいところを発見することにも重きが置かれている。よいところを話し合うことによって、記録を取った保育者自身が気づいていないよい点を自覚することができると共に、園全体でお互いのよいところを伸ばすと共に、お互いを支えあう姿勢が生まれると考えられる。

第三段階は「保育方法の振り返り」である。第二段階で、話し合った「保育方法」について、改めて総合的な観点から、話し合いに参加した保育者全員が自らのクラスの保育環境に対し、チェックリストによる評価を行なっていく。チェックリストの項目は、項目全てを細かくチェックしてチェックリストで評価を行うことによって、客観的かつ多様な視点で、改めて保育を振り返ることができる。そして、総合的に見直しを、クラス全体の環境構成や教師のかかわりなどを考えて、「改善したいこと」「改善のために具体的にこなうこと」を話し合う。話し合った結果については、保育の中で実行し、どのような変化が起きたかを改めて振り返る。この段階があることによって、評価して終わりではなく、評価したことや話し合ったことを、実際に次の保育に繋げていくことが可能になる。

この日本版SICSは、記録やチェックリストを含む3つの段階を踏むことから、保育者の負担は決して少ないとは言えないだろう。しかし、園全体で保育をよくしていくプロセスを共有できる点や、保育者同士でお互いを支え合うことを重要視している点で、個人だけではなく園全体で実際の保育が変わっていく可能性があると考えられる。

#### D. 結論



日本版 SICS は、チェックリスト方式の客観性と、記録方式の振り返りや話し合いができることの両方を兼ね備えている、保育の質評価ツールであると言える。今後の課題としては、実際に保育現場において評価を行う上で、評価の質を落とすことなく、現場の負担をどのように軽減するかを考えていく必要があるだろう。

#### 引用・参考文献

- 秋田喜代美, 箕輪潤子, 高櫻綾子 (2007) 保育の質研究の展望と課題, 東京大学教育学研究科紀要 47 pp. 289-305
- 郷式徹・金田利子・渡邊保博・長崎イク 2002 幼稚園・保育園の分類尺度 (1) 日本発達心理学会発表論文集 p. 34
- Harms, T., Clifford, R. M., & Cryer, D. 1998 *Early Childhood Environment Rating Scale, Revised Edition*, New York: Teachers College Press 埋橋玲子 (訳) 2004 保育環境評価スケール〈1〉幼児版 法律文化社
- Harms, T., Cryer, D., & Clifford, R M. 2003 *Infant / Toddler Environment Rating Scale, Revised Edition* New York: Teachers College Press 埋橋玲子 (訳) 2004 保育環境評価スケール〈2〉乳児版 法律文化社
- 土方弘子 1997 三歳未満児の「保育の質」に関する一考察—1歳児クラスの遊びの継続を通して— 大垣女子短期大学研究紀要 第38号 pp. 27-35
- 土方弘子・諏訪きぬ 2002 5歳児の発達と「保育の質」—長期間保育児と短期間保育児の「発達上の差異」再検討 (2) — 保育の研究 第19号 pp. 48-62
- 岩立志津夫・諏訪きぬ・土方弘子・金田利子・木下孝司・齋藤政子 1997 保育者の評価に基づく保育の質尺度 保育学研究 第35巻 第2号 pp. 52-59
- 岩立志津夫・諏訪きぬ・土方弘子・金田利子・木下孝司・齋藤政子 1998 「3歳未満児用保育の質尺度案1997」による公私立差・地域差・保母の年齢差の検討 保育学研究 第36巻 第2号 pp.87-93
- 金田利子 1982 保育理念, 内容・方法と保育形態 日本保育学会 保育学年報 1981年度版 pp. 39-46
- 金田利子・諏訪きぬ・土方弘子 2000 保育の質の探究—保育者—子ども関係を基軸として ミネルヴァ書房
- 金田利子・渡邊保博・長崎イク 2002 現代日本における保育実践の累計化-その特徴による分類:『保育の質』研究の前提として- 日本保育学会第56回大会発表論文集 pp. 304-305
- 根ヶ山光一・星三和子・土谷みち子・松永静子・汐見稔幸 2005 保育園0歳児クラスにおける乳児の泣き—保育者による観察記録を手がかりに— 保育学研究 第43巻 第2号 pp. 65-72
- (財)日本保育協会 2006 保育内容等の自己評価のためのチェックリスト保育者篇 日本保育協会
- 西山修 2006 幼児の人とかかわる力を育むための多次元保育者効力感尺度の作成 保育学研究 第44巻 第2号 pp. 150-160
- 佐伯胖 2007 共感 ミネルヴァ書房
- 園田菜摘・無藤隆 2001 幼稚園「預かり保育」に関する研究:保育の質と子どもの様子 乳幼児教育学研究 第10号 pp. 33-40
- 諏訪きぬ・土方弘子 2001 5歳児の発達と「保育の質」—長期間保育児と短期間保育児の発達上の差異をめぐって— 保

## Perception of Quality of Care and Education in the Particular Activities: Analysis of Clean-Up Time in Japanese Preschools

Junko Minowa Kawamura Gakuen Women's University

Kiyomi Akita University of Tokyo, Graduate School of Education

Katsuo Yasumi Itabashi Fujimi Kindergarten

Tokiko Masuda Sacred Heart Professional Training College

Fuminori Nakatsubo Hiroshima University, Graduate School of Education

Fumiko Sunagami Chiba University

## Background

- In recent years, professionalism in early childhood education has taken on greater significance as a field of study (e.g. OECD 2006, EECERA 2008).
- Many studies have shown that how teachers interact with children affects the quality of education as well as the development of children.

## Putting-things-in-order & Clean-up

In Japanese ECE, it is thought that  
"Putting-things-in-order & clean-up," is

- Important as daily life routine
  - Play, eat, sleep in one room.
  - Children is required to do daily things by themselves as soon as possible.
- Important for child development
  - Social development
  - Cognitive development

On the other hand...  
"Putting-things-in-order & Clean-up," might  
cause conflict between  
Teacher's intention and Children's will  
(Daily life) (Play)

Purpose of this research is  
Examining the quality of the child care and  
education by clarifying how Japanese  
preschool teachers think about the putting-  
things-in-order and clean-up .

## Purpose

Examine the quality of the child care and  
education by clarifying how Japanese  
preschool teachers think about the time of  
putting-things-in-order and clean-up their  
room.

## Methods (Video)

- Feeling just like as being presence
- A lot of information
  - "Nonverbal and physical aspects"
    - ex. Movement, Facial expression, position
  - "space"
    - ex. Arrangement of desks in the classroom, environment for children's play
  - "Time passing"
    - ex. passage and development of activity
- Effective tool for research which can bring out teacher's voice
  - "Multi-vocal ethnography" (Tobin, Wu, & Davidson, 1989)

- Participants  
9 preschools (2 national, 3 public, 4 private),  
70 preschool teachers (4~15 teachers in each  
preschools)
- Procedures  
1. The participants viewed 3 video clips.  
2. The participants were asked to talk about their  
overall impressions each other. (Discussions  
were recorded by audio-tape recorder)

#### • Data Analysis

1. Research group members analyzed the results of the  
former study (showing the same video clip to three  
preschool teachers at three different preschools) and  
extracted 30 categories.
2. Based on the categories, we analyzed this study's  
data set.
3. By illustrating commonalities and differences of the  
contents in each category, ways in which preschool  
teachers pay attentions and give concerns in terms of  
clean-up time were examined.

#### Video

“ Let’ s keep it for tomorrow „

- Training videos of preschool teacher.
- Children in this video clips are 3-year-old.
- The teacher in this video clip is novice
- In Japan, new semester starts April.
- This video is made by film in May.
- 3,4,5,6-year-old children are in the preschool of  
this video.
- Scene is “putting-things-in-order & clean-up „  
time before the time parents come to pick up  
children „

#### Results

- Preschool teachers refers about・・・  
“Interaction with children in verbal way „  
“Interaction with children in non-verbal way „  
“Child development „  
“Cooperate with preschool teachers „  
“Schedule of the day „

Japanese teachers have many point of view to  
“putting-things-in-order and clean-up „



☺ It is important to understand children’ s will and  
consider children’ s development, when they try to  
make children put things-in-order and clean-up.

☺ “Putting-things-in-order and clean-up „ is the  
part of play, and the preparation of next activities.

The quality of ECE in Japan is・・・

- Teachers hope and try to stimulate that children  
become to understand “Why they should do it „ and  
to do dairy routines and play autonomously
- Teachers think and try to do their practice in the  
concepts of play and daily life cannot be  
separated.



Children become to think by themselves and  
become autonomous in not only play but also  
daily life.



200801016A

本研究報告書には下記のDVD-RWが添付されています。

「保育環境の質尺度の開発と保育研修利用に関する調査研究」

【日本版SICS】子どもたちのエピソードから始める自己評価法

- 「夢中度」評定のために
- 園内研修での実施方法

平成20年度厚生労働省科学研究費補助金・政策科学総合研究事業  
(H19-政策一般-016)

